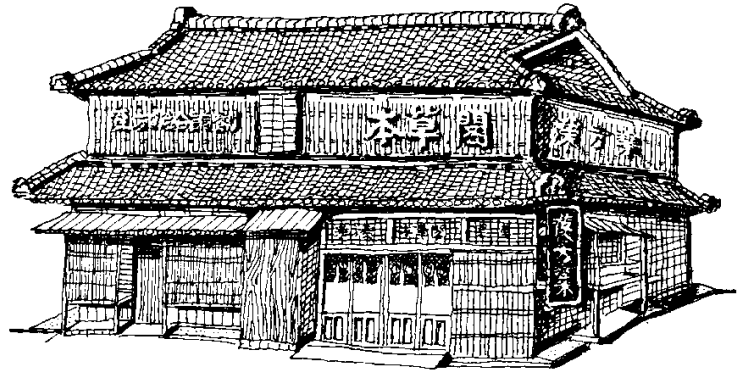


# 本草閣 かわら版

第70号

平成16年6月15日発行



漢方の本草閣 本店  
〒460-0012  
名古屋市中区千代田5-21-17  
(JR 鶴舞駅西)  
JR中央線・地下鉄 鶴舞駅下車  
TEL 052-241-3388  
FAX 052-241-3443

漢方の本草閣 緑店  
〒458-0016  
名古屋市緑区上旭1-622  
(滝の水公園西)  
名鉄バス滝の水口下車 徒歩約5分  
TEL 052-899-0221  
FAX 052-899-0236

<http://www.honsoukaku.co.jp/>  
E-mail: [kanpou@honsoukaku.co.jp](mailto:kanpou@honsoukaku.co.jp)

<http://www.honsoukaku.co.jp/>  
E-mail: [midori@honsoukaku.co.jp](mailto:midori@honsoukaku.co.jp)

## 民間薬よもやま話

### 第17回 桑：クワ科

桑は日本に野生するヤマグワと区別するために唐桑（カラグワ）と呼んでおり、落葉の高木で15mにも達します。一般に蚕の飼料としての栽培では、主幹は切り低木状に育てるので2～3mの高さです。桑は使用部位により桑白皮（根皮）、桑葉（葉）、桑枝（枝）、桑椹子（果実）と名前がつけられ、薬効もそれぞれ違いがあります。

桑白皮は冬に根を掘り、細い根は取り除き、水洗いしてから皮部をはぎ天日で乾燥させます。薬効は利尿、血圧降下、血糖降下作用などがあります。桑葉は11月ごろ葉を採取して天日で乾燥させます。薬効はCa、Fe、Znなどのミネラルを豊富に含み、また、腸内悪玉細菌を減少させるため便秘の改善を期待できます。ほかにも血糖降下作用、癌の予防、血中のコレステロール、中性脂肪の減少作用、血圧降下作用、滋養強壮、咳、風邪の時の解熱作用などいろいろあります。桑枝は4～6月ごろに若い枝を刈り、天日で乾燥させます。薬効はリウマチ、神経痛、関節炎に効果的です。桑椹子は4～6月ごろに果穂を集めて蒸して乾燥させます。薬効は肝臓、腎臓の機能を高める作用などがあります。

服用方法は目的に応じて10～20g程度を水1Lの中に入れ、沸騰したら弱火で10分間程煮立てて服用します。

## ☆最近の本草閣の治験例から☆

### ●人工透析を回避！

腎臓機能の目安として血液検査のクレアチニン・尿素窒素が重要視されますが、クレアチニン 8.0、尿素窒素 85 まで上がり医師から人工透析を指示された腎不全の患者さんが漢方薬と「牛黄（ごおう）」の服用により現時点にてクレアチニン 1.4、尿素窒素 20 まで下がり人工透析、新薬服用することなく元気に主婦業に励んでおられます。食事等の養生もキチンとされておられますが間もなく5年が過ぎ様としています。

考えるに「牛黄」の働きである心から出た血液を身体のスミズミまで送ってくれる作用で腎の奥まで血液をめぐらし腎機能そのものを活発にし、漢方薬にて肝・腎のバランスが整えられた結果だと思われます。

### ●骨髄移植を考えた！

新しい血液が造られない「再生不良性貧血」と言う難しい病がありますが、血液不足のため時々「輸血」を行ってきた昭和 24 年生まれの男性が、さまざまな新薬を服用するも効果なく妹さんからの骨髄移植をも考えられておられました。初め漢方薬服用にても思うほど効果なく苦慮し、基本に立ち返り食べた物を十分に吸収させる小腸の漢方薬と心から出た血液を全身に、特に栄養分を吸収する小腸にしっかり血液を運んで活発にさせる「牛黄」の併用により段々と白血球・ヘモグロビン・血小板の数値が上がり輸血する事なく、元気に仕事・趣味と活躍をされておられます。

漢方薬がパーフェクトな薬ではありませんが、病と別離れるためにも、人間の身体の基本を考えて、如何にしたら各臓器・腑・脳・目・耳・皮膚・・・等に血液を巡らせて、スムーズに働くようになるかに立ち返り、一度は東洋医学・漢方の考えを参考にされる事を是非ともお薦め致します。

「知識」よりも我々日本人の先人の「経験」「知恵」を大事にしたいものです！

〔文責 林 譽史朗〕